

# 「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)  
進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって  
「理想」を創造する

## よりよい役場をめざして

令和になって初めての月は、出張が多い月でした。しかも、後半に集中したため、かなりのハードスケジュールでした。鳥取市での県造林公社の監査、理事会、県農地・水・環境保全協議会の総会、東京での全国高速道路建設協議会総会と要望活動、松江市での伯備新幹線期成同盟会設立総会、名古屋での東海鳥取県人会、若桜町での鳥取・岡山県境連携推進協議会等々。その合間を縫うようにして、「公務員の組織風土改革世話人交流会in神戸」に参加してきました。

この会は、公務員としての責任をよりよく果たしていくために実際の行動を大切にされる者たちが集まり、互いに思いを共有し確認すること、連携し励まし合い、元氣と自信を得て、自らの次の行動に結び付けていくことを目的としています。公務員として良い仕事をしたいという個人の思いを組織に生かし、組織を通じ地域をよりよ



▲「公務員の組織風土改革世話人交流会in神戸」の様子

くする組織風土改革の動きにつないでいくプロセスを考え、話し合う交流会です。この会を2000年から始められた元吉由紀子さんは、改革派知事として注目された北川正恭元三重県知事の二期目に、三重県庁の行政改革を支援してこられました。著書も何冊もあり、私もそれを読み、フェイスブックでつながり、今回の交流会に声をかけていただきました。組織も立場も異なる10名ほどの参加者でしたが、それぞれが現場での思いや悩みを語り合い、気づきやアイデアをもらうことができました。今後は、職員の参加も奨励します。他の自治体職員の組織風土改革の思いや悩みを聞き、自分の考えを話すことで、江府町役場の組織風土改革につなげて欲しいと思います。

# 「3000人の楽しい町」プロジェクトチーム(※)活動報告

こんにちは。今年度からプロジェクトの新メンバーとして加入させていただきました、平林です。私は以前、東京都下の役所に勤めていました。同じ行政の仕事でも、それぞれに違ったこともあり、今回は江府町役場の良いところ、あるいは気になった点について書いてみたいと思います。

### ①窓口がまとまっている

以前の役所はそれぞれの仕事に完全に縦割りになっており、手続きをするにしても、様々な窓口を回らなければならぬことが多々ありました。それに比べ、江府町役場は、現状として建物が分かれている面はありますが、事務手続きの機能が比較的、集約されているように感じます。来年の新庁舎移転に向けて、窓口業務の棚卸しを図ることにより、さらに高い住民サービスを提供を目指せるのではと思っています。

### ②手続きのスピード感

以前の役所に比べ、各種証明書の発行や手続きの処理速度が速く、限られた人員の中で、効率的に事務を進めていると感じ

### ③あたたかさや役場感

江府町役場は職員と住民さんの距離感が近く、アットホームな職場だと感じています。また、現在の庁舎は年季が入っており、時間とともに育てられた、独特の役場感があると思います。この、役場らしさを「良し」とするの、あるいは新たなイメージを目指していくのか、みなさんの役場への想いもぜひ聞いてみたいです。

今後、プロジェクトチームにて、様々な「仕事のやり方改善」を目指していきます。良いところは伸ばし、変えていくべきところは変えていく、強い推進力となればと思います。



▲平林知紘メンバー(住民課所属)

これまでの活動はこちら!



これまでの活動の様子はQRコードを読み取ることでご覧いただけます。

※「3000人の楽しい町」プロジェクトチームとは・・・有志の20～30歳代の江府町役場職員と、その職員から選出されたリーダーで構成。今年度で4期目を迎え、楽しい町の支障となる様々な課題について課を越えて取り組む。